

2024 年度 学校法人福岡建設専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果

1. 学校の教育目標（学則より抜粋）

本校は、「人間の力・知識の力・技術の力・感性の力・デザインの力」の育成を目的とし、教育基本法及び学校教育法の規定に従って、工学に関する基礎知識と土木・建築の実践的な専門技術を教授するとともに、広い視野を持ち、豊かな教養を身につけた技術者を養成する。

2. 2024 年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 学生個々の適性や能力に応じた教育・指導の充実

- ・ 基礎学力の向上及び専門分野の知識の習得
- ・ 資格試験対策授業の実施
- ・ 社会人として必要となる資質・教養の育成

(2) 資格取得の推進

- ・ 全員受験、全員合格を目指した指導

(3) 就職支援の充実と就職率の高水準維持

- ・ 建設業界への就職希望者内定率 100%
- ・ コラボレーターズ企業による「企業説明会」の定期的な開催
- ・ 個別の相談及び指導
- ・ 外部講師によるビジネス講座の継続

3. 評価項目の達成及び取組状況

※学校評価基準：適切…4 ほぼ適切…3 やや適切…2 不適切…1

(1) 教育理念・目標

評価項目	自己評価
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
② 学校における職業教育の特色を持っているか	4
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3
課題・改善方策・特記事項	
・学校の将来構想や教育目標を教職員会議などで具体的な情報共有を随時行うことにより、教職員の理解を深める取り組みを行う。 ・業界関係者と意見交換を行い、教育目標や育成人材像をより効果的に方向づける。 ・保護者面談やオープンキャンパスなどを通じて、学生・保護者への周知を継続する。 ・地元企業との連携や企業説明会、現場経験を持つ講師による実体験に基づく授業を通じ、職業理解の向上を図る。	
学校関係者評価	
・特になし	

(2) 学校運営

評価項目	自己評価
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか また、有効に機能しているか	3
④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
課題・改善方策・特記事項	
・理事会や総会で運営方針を決定し、議事録を全教職員に回覧することで意思決定内容を周知する。 ・年に一度実施しているコンプライアンス講座を継続し、教職員・学生の意識向上を図る。 ・教育活動に関する情報はホームページで公開している。 ・統合型グループウェアソフトを活用し、申請・スケジュール管理・成績入力などの業務効率化と教職員間の情報共有を推進している。今後は、システム運用ルールを明確化し、教職員への周知を通じてさらなる業務効率化を目指す。	
学校関係者評価	
・コンプライアンス講座は年 1 回、教員と学生に対して行われているが、事務職員も参加できるようにすることが望ましい。業務の都合上参加が難しいのかもしれないが、コンプライアンスは事務職員にとっても重要であり、全員参加できる体制が必要である。	

(3) 教育活動

評価項目	自己評価
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

課題・改善方策・特記事項
・教育課程は専門分野ごとに体系化され、基礎時間数や資格受験要件に対応した科目・単位を確保している。 ・シラバスには各科目の到達目標を明記し、年２回の検証会議で理事等の意見も反映している。 ・非常勤講師による実体験授業や現場研修により、学生の職業理解を深める場を提供している。 ・授業アンケートの導入については継続検討する。 ・資格対策講座を毎年実施し、国家資格取得の重要性を学生に伝えている。 ・教育活動は就職支援と資格取得指導を主軸とし、学生の社会での活躍を後押ししている。 ・教職員の人数不足への対応として、必要な教員の募集を継続して行う。 ・外部機関による教職員研修や他校との交流、業界団体からの情報収集を推進し、教職員の資質向上を図る。 ・研修・セミナーの案内を全教職員へメールで周知し、参加を促した結果、研修参加回数が昨年より２倍に増加した。引き続き積極的に参加を促し、参加状況や報告書の共有を通じて意識向上を目指す。
学校関係者評価
・授業アンケートについては継続検討するとあるが、実際に実施するのは中々難しいと思われる。学生の回答内容が必ずしも正確であるとは限らない。いずれ導入するのであれば、学生自身の遅刻や欠席等の有無を確認するなど、回答者の背景を把握させるための質問をアンケートの冒頭に設けるなどしっかり検討したほうが良い。 ・昨年の委員会でも指摘があったが、教職員数が業務量に対して少ない印象を受ける。

(4)学修成果

評価項目	自己評価
① 就職率の向上が図られているか	4
② 資格取得率の向上が図られているか	4
③ 退学率の低減が図られているか	3
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
課題・改善方策・特記事項	
・担任が積極的に学生に働きかけ、１年次からエントリーシート作成などの授業を通じて、就職に関する意識を醸成する。 ・求人状況は良好で就職指導と就職後のフォローにより、就職率は１００％を達成している。ビジネス講座などを通じ、学生の自主的な就職準備を促す。 ・複数の資格対策授業をカリキュラムに組み込んでいる。 ・専任教員によるクラス担当制やカウンセラー配置、オンライン相談体制を整備し、退学率低減に努める。 ・卒業生の資格取得状況や就職後の情報を、卒業見込み調査票や各種証明書の申請書から情報をデータ化して継続的に把握する。 ・卒業生の資格取得状況を把握・フォローする仕組みとして、各種証明書の申請を電話や郵送ではなくホームページで受け付け、最新のメールアドレスを収集できる体制の導入を検討する。	
学校関係者評価	
・同窓会誌を作成し、卒業生の活躍を紹介する企画なども今後検討しても良いのではないかと。	

(5)学生支援

評価項目	自己評価
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4

③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	3
⑦ 保護者と適切に連携しているか	3
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	3
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
課題・改善方策・特記事項	
・「こころの相談室」を設置し、定期的にカウンセリングの機会を提供している。また、奨学金制度や授業料分納制度など、経済的支援も充実している。 ・課外活動の支援として、専門学校での体育大会への参加、コンペ応募、学生スタッフとの食事会など一定の体制は整っているが、カリキュラムがほぼ全学科必修であるため、十分な支援が行えていない。今後は柔軟な時間割や課外活動との両立を意識した支援体制の検討を進める。 ・健康管理として年1回の胸部レントゲン検査の実施や近隣医療機関の紹介、学生災害傷害保険に加入している。 ・保護者面談はリモート対応可能で、成績不振者への連絡も実施している。 ・卒業後も希望者への就職斡旋は継続して実施しているが、個別相談に留まっているため、継続的な支援体制の見直しを検討する。 ・夜間部では、職業訓練給付金制度の活用や専用駐車場の完備など生活環境の整備ができています。今後は、対面・リモート授業を選択可能とする運営体制の導入を検討し、出席率の向上と学生の負担軽減を図る。	
学校関係者評価	
・夜間部は就労者が多く、勤務地によっては通学が難しい場合もあるため、対面授業以外の運営体制を検討しても良いのではないかと。 ・多くの企業では入社後に建築士や施工管理技士の資格取得研修を行っている。学校と企業が直接契約を結ぶことで、双方にとって有益な取り組みとなる可能性がある。	

(6)教育環境

評価項目	自己評価
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
② 学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	3
③ 防災に対する体制は整備されているか	4
課題・改善方策・特記事項	
・学生用PCは授業に必要なスペックへ更新されており、就職後も活かせるスキル習得を支援している。 ・PC室をパーティションで区切り2クラス同時での授業実施やソフトウェアの更新を随時行うことを検討し、学習環境の充実を図る。電源付き自習スペースの増設も検討中である。 ・施設設備は定期点検や外部業者とのメンテナンス契約、学内システム管理者の設置を含めて維持管理を強化する。 ・2024年度に急を要する修繕工事が完了した。展示教室や夜間棟出入口のウッドデッキ整備を今後の課題としている。 ・防火管理を重視し、年1回、消防署と連携した消火・通報・避難訓練を実施している。また、防犯対策として全教室に緊急非常ボタンを設置し、防犯カメラも増設した。鮮明な映像と音声の記録により、施設内および出入口の安全対策を強化している。	
学校関係者評価	
・特になし	

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	自己評価
① 学生募集活動は、適正に行われているか	3
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
③ 学納金は妥当なものとなっているか	4
課題・改善方策・特記事項	
・少人数の教職員で運営しており、直接訪問型の募集活動が不十分である。 ・高校訪問やガイダンス参加、オープンキャンパスの毎月開催により、高校生や保護者への広報活動を強化する。 ・オープンキャンパス開催日に参加できない見学希望者には、希望学科の教員が個別に面談や施設紹介を行なっている。また、県外からの参加者のハードルを下げるため、オンラインオープンキャンパスの実施も検討している。 ・本校の教育成果である高い就職率や資格取得率を正確に伝えるため、教職員全体で情報を共有し、説明内容の一貫性を確保する。 ・夜間部は専門実践教育訓練へのランクアップにより、学費負担軽減が見込まれる。 ・外国人留学生の受け入れについては語学面の課題があるため、業界動向や他校の状況を注視しつつ、受け入れ体制の検討を開始している。	
学校関係者評価	
・施工管理技士の試験は、専門学科出身でなくても受験可能となっているため、本校の特色や強みをより積極的に発信し、魅力を広く伝えていくことが重要である。 ・現場では人手不足が深刻化しており、外国人労働者の割合が今後さらに増加すると見込まれる。国全体でも外国人技能教育は重要課題となっており、本校も留学生受け入れ留学生の受入れに取り組んでいただきたい。	

(8) 財務

評価項目	自己評価
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題・改善方策・特記事項	
・借入がない点が本校の強みである。 ・設備やリース、PC ソフト更新時には、プラン内容を精査し、費用対効果を考慮した運用を行う。 ・財務情報についてはホームページの情報公開ページに掲載している。	
学校関係者評価	
・特になし	

(9) 法令等の遵守

評価項目	自己評価
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
④ 自己評価結果を公開しているか	4

課題・改善方策・特記事項
・自己評価は全教職員で実施し、評価委員の意見も取り入れ、改善点の把握と対応を行う。 ・個人情報や機密文書の保護には、ログインパスワードの設定や鍵付きの部屋・書棚での管理など基本的な対策を実施している。 ・評価委員からの意見や指摘を基に改善すべき内容を全教職員で話し合い、取り組みの優先順位を明確にした上で、順次対応を進めている。 ・自己評価の実施と問題点の改善、自己評価結果の公開を行なっている。
学校関係者評価
・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3
課題・改善方策・特記事項	
・CAD やパソコンの職業訓練技能講座、建築史の公開講座を夜間棟で開催することを検討し、生涯学習の推進を目指す。 ・ボランティア活動への参加を促すため、単位とは別に認定評価できる仕組みの導入や学生への働きかけを強化する。 ・コロナ以前に実施していた学校周辺や筥崎宮の清掃活動、箱崎中学校などでの出前授業の再開などを検討している。 ・令和6年10月～12月には、天神アクロス福岡で「未来のための文化講座 vol.2」を開催し、参加者に学びの場を提供した。	
学校関係者評価	
・特になし	

■学校関係者評価委員

氏名	所属	本校との関わり
河野 昭彦	九州大学 名誉教授	教育に関し知見を有するもの
坂井 猛	九州大学大学院人間環境学府 教授	教育に関し知見を有するもの
武石 修吾	松山建設株式会社 総務部副部長	関連業界等関係者
中村 隆元	中村工業株式会社 代表取締役	関連業界等関係者・同窓会会長・卒業生

※五十音順、敬称略

■開催日

2025 年 9 月 19 日(金) 福岡建設専門学校 展示教室